小学校

国語科の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○　「ニャーゴ」の続き話を書くために，場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。

思考力の育成

◇　学年　　第２学年

◇　単元名　「ニャーゴ」のお話の続きを想像して続き話を書こう（教材名　「ニャーゴ」）

◇　本時の目標　　「ニャーゴ」の続き話を書くために，第四場面の様子について，ねこの行動を中心に想像を広げながら読むことができる。

◇　学習の流れ　（4時間目/全6時間）

学習活動	指導上の留意事項（◇） **（◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て）**	評価規準〔観点〕 （評価方法）
1　前時の学習内容と本時のめあてを確認する。	◇ねことねずみと地の文の役割を決めて，第三場面までを音読させることで，前時までの学習を振り返らせる。	
お話の続きを想像して続き話を書くために，第四場面のねこの様子や気もちを想像してまとめよう。		
2　第四場面を音読する。 3　1回目の「ニャーゴ」と言ったときのねこの気持ちを考える。 ・全体で考える 4　2回目の「ニャーゴ」と言ったときのねこの気持ちを考える。 ・個別で考える	◇だれがどんなことをした場面か考えながら音読するよう指示する。 ◇「できるだけこわい顔」「さけびました」「と言おうとしたそのときです」という記述に気付かせる。 **◆気持ちを想像しやすいように，ねこになったつもりで叙述に即して「ニャーゴ」と動作化させる。** ◇ねこの気持ちが想像できる，ねこの行動や言葉，様子を表す言葉や文に線を引かせる。 ◇線を引いた箇所を中心にして，自分の読書体験や経験と関連付けて考えたねこの気持ちを吹き出しに書かせる。 **◆気付いてほしい叙述を抜き出しているカードを用意しておき，必要に応じてカードを渡し，教科書で見付けて線を引かせる。**	
・全体で考える。 **予想される児童の反応** ア今度こそ食べるぞ。 イ食べられなくて残念だ。つまらない。 ウうれしいな。楽しいな。 エ自分たちのももまでくれてありがとう。 オ優しいねずみを食べようなんて思ってごめんね。はずかしいな。 カねこのおれがねずみにももをもらうなんて，はずかしいな。 キまた，一緒に行こうね。	**手　立　て** → 1回目と2回目の「ニャーゴ」を言ったときのねこの様子を比較させたり，「小さな声で答えました」という叙述に着目させたりする。 → 何がうれしかったのかを詳しく聞くことで，ねずみの優しさに気付かせる。 → どんなももだったのかを叙述に即して確認したり，その場面を動作化させたりすることで，ねずみの優しさがこもったももだったことに気付かせる。 → 「ももをだいじそうにかかえたまま」や2回出てくる「小さな声で答えました」の中に含まれるねこの気持ちの違いなどに気付かせる。 ◇児童が個別で考えた意見を事前に把握しておき，考えが深まるように意図的指名をする。 ◇多様な考えを事前に想定しておき，児童の生活や経験を想起させたり，切り返しの発問等をしたりすることによって，児童からそれらを引き出し，話合いを深める。	
5　第四場面についてまとめる。	◇４場面において，変化したねこの気持ちを入れて書くようにさせる。 **◆書き方の例を示したヒントカードを用意しておく。**	・ねこの言動を基に想像した子ねずみたちを思う優しいねこの気持ちを含め，第四場面のねこの気持ちを書きまとめている。［読む能力］（ノート）
児童のまとめ例 ・最初は子ねずみたちを食べてやるぞという気持ちだったのに，自分のももをくれるなんてありがとう。なんだかちょっとはずかしくなったよ，という気持ちになった。		
6　本時を振り返り，次時につなげる。	◇次時は，続き話（第五場面）を書くために，どんな場面にするか考えていくことを伝える。	

単元全体の見通しと，課題意識，課題の解決方法を持たせましょう。

★第三次の学習で行う，お話の続き話を書くために必要な学習であることを意識することで，本時の学習をする必要感ややる気を持たせることができます。

対立する意見を取り上げ，根拠となる叙述（ねこの行動や言葉，様子を表す言葉や文）を基に議論するよう仕組みましょう。

★児童の意見を対立させることで，児童の読みが深まります。その際，指導者が事前に気付かせたい叙述やそこから想像させたい気持ちを想定しておくことで，より叙述に着目した話合いになります。